

外国人旅行者向け情報発信の強化

Ver150818

知床財団

1. 提案内容

キ ャ ッ チ コ ピ ー・目的	今後 10 年間で、 外国人旅行者に対して、 知床半島の各拠点をつなぐモデルコースを提案し、 知床ルールの情報発信力を強化する。 この情報発信戦略のキーワードとして「知床トラバース」を設定する。
背 景・理 由	知床が世界自然遺産に登録されてから 10 年が経過した。この間の遺産地域の観光利用形態の変化は、斜里側で五湖と観光船への集中、羅臼側は観光船利用の増加などがあるが、両地域に共通する顕著な変化としては、外国人旅行者の増加が上げられる。さらに 10 年～20 年後を考える時、現在大きな利用者層である日本人熟年層は減少に向かい、外国人の割合はさらに増加することが予想される。訪日外国人旅行者の増加は地域経済にとって大きな可能性であるが、同時にいくつかの懸念も生じる。例えば、ヒグマへのエサやりや接近が危険な行為だと認識していない外国人旅行者を見受けることが増えてきている。環境保全上の各種ルールをいかに伝え、遵守に導くかが、重要な課題となっている。このような状況を鑑み、持続可能な観光利用と環境保全を両立するために、外国人旅行者を意識した知床ルールの効果的な情報発信の仕組みを作る。具体的には知床の価値を適切に伝えるキャッチフレーズを作り、同時にモデルコースを作成し、知床の楽しみ方の提案とセットでルールを周知する戦略を提案する。モデルコース作成の手法として、既にある観光拠点や素材を「つなぐ」ことに重点を置く。ネットワーク化による魅力アップと、各拠点の情報発信機能を強化することにより、ルール周知を徹底する仕組みを作り上げる。
具 体 的 提 案 内 容	第 1 期：情報発信の仕組みを整える。 ① 情報発信戦略会議を立ち上げ、発信メディアを作成・運用する。 ・キャッチフレーズの決定。 ・発信メディアの決定（ガイドブック or 電子書籍 or WEB サイト）。 ・体験プログラム・トレイルをつなぎ、モデルコースを作成する。 ・各プログラム、トレイル、コースの難易度(グレード)を明示する。 ⇒ 参考事例「大雪山グレード」 http://www.daisetsuzan.or.jp/enjoy/grade/ ・利用者ニーズとグレードをマッチングする仕組みを作る。 ⇒ 参考事例「シレココ」 http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/ ② フロントカントリー（自然センター周辺）での情報提供 2014 年秋にホロベツ地区で「しれとこ 100 平方メートル運動地公開に関する

	<p>る社会実験」が実施された。そこで取り組まれた事前レクチャーと情報提供、新規遊歩道の設置と運用については、100平方メートル運動地が対象となるため、斜里町および知床財団が継続して進める。検討状況等は今後の各拠点のネットワーク化や情報発信強化のモデルケースとして共有する。</p> <p>③ バックカントリー（奥山エリア）での情報提供。</p> <p>2014年には連山縦走路で山岳事故が頻発した。各登山道の難易度を明確化し、利用者のニーズとのマッチングができる情報提供を行う。奥山での自然体験は自己責任を前提とした上で、この地に適した情報提供を定義し、整備は必要最低限に留める方針とする。</p> <p>具体的には、登山口である木下小屋、カムイワッカ園地、羅臼ビジターセンターなどの拠点が担うべき情報発信の強化、連山縦走路の最低限のメンテナンスを行う。</p> <p>-----</p> <p>第2期：（第1期の中で課題整理が進んだ場合に再提案する将来的な構想）</p> <p>④ 象徴となるロングトレイル「グランドトラバース」を整備する。</p> <p>⑤ プロジェクトを持続的に運用する仕組み「ワークアンドスティ」を地域社会に構築する。</p>
--	--

2. 戦略の基本原則との対応

① 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上	外国人旅行者へのルール周知を効果的に行い、自然環境の保全を促進する。楽しみ方の提案とルールをセットすることにより、知床が世界自然遺産地域であり環境保全上のルールを重視している姿勢を伝え、適切な行動へ誘導することを目的としている。
② 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供	訪日外国人旅行者を対象とし、知床のイメージと具体的な自然体験のマッチングを意識したモデルコースを設定し、発信する。満足度の向上と世界自然遺産地域としてのブランド価値の向上を目的としている。
③ 持続可能な地域社会と経済の構築	観光産業において今後大きなマーケットとなる訪日外国人旅行者の来訪促進を行う。地域における該当マーケットへの対応を戦略的に進めることにより、持続可能な発展を目的としている。

3. 検討部会の想定メンバー

関係行政機関	釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、北海道、斜里町、羅臼町
地域関係団体	知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会、知床ガイド協議会、知床エコツーリズム推進協議会、斜里山岳会、羅臼山岳会

【参考資料1】キャッチフレーズ案「知床トラバース」について

* 「知床トラバース」のトラバース (traverse) は英語で縦走する、という意味。知床が国内向けにアピールする原生的な自然、広大な景観、ヒグマがいる場所は、世界には他にも数多く存在する。世界の中で差別化できる知床の特徴は、むしろ海と山がつながる多様な自然がコンパクトに連なる「狭さ」である。この狭さを活用すれば複数の自然環境や体験を“短期間”で“連続して”体験してもらうことが可能である。例えば、羅臼と斜里は、隣町だが気候も環境も町民気質も違う。羅臼のトレッキングと斜里の観光船を組み合わせ、移動して多様性を演出したモデルコースを作り「知床を縦走しよう」と呼びかける。このコンセプトのモデルコース群を「知床トラバース」と総称する。

〈モデルコース提案のイメージ〉

既存登山道または車道(青線)に、新規のコース(赤線)をつなぐことで、知床自然センターから知床岬まで歩くルートが提案できる。



例1)	グレード例	例2)	グレード例
Day1 ウトロ観光船	① (クマリスク無)	Day1 自然センター～木下小屋	② (車道)
Day2 ウトロ= (バス) =羅臼 途中で羅臼湖	② (遊歩道)	Day2 木下小屋～羅臼岳	③ (一般登山道)
Day3 羅臼観光船	① (クマリスク無)	Day3 羅臼平～硫黄山第一火口	④ (上級登山道)
		Day4-5 硫黄山第一火口～ルサ FH	ex (やぶこぎ)
		Day6-7 ルサ FH～相泊～知床岬	⑤ (海岸トレッキング)

【参考資料2】フロントカントリー（自然センター周辺）での情報提供の進め方

1) 知床自然センター・リニューアル

2015/10/26～2016/04/19の間、知床自然センター改修工事が実施される。2014年秋にホロベツ地区で実施した「しれとこ100平方メートル運動地公開に関する社会実験」(以下、2014ホロベツ実験)では散策前の利用者へのレクチャーやオンラインでの情報提供などを試行した。施設改修にあわせ、情報提供機能の内容と実施体制を検討し、2016春から順次機能を強化していく。

2) 森づくりの道・新規コースの検討について

2014ホロベツ実験では、既に供用されている「フレペの滝遊歩道」「森づくりの道・シカ柵コース」に加え、長短2つの実験コースを試行的に運用した。実験コースについては、一定の評価を得たが、同時に以下の課題が指摘された。

- ・ヒグマ対策上の追い払い活動を制約しないコース設定が必要
- ・市街地と保護区の境界線付近でのヒグマの人馴れ進行の懸念
- ・ロングコース終盤の急こう配地における植生への悪影響
- ・トレイル上からの眺望景観の魅力不足
- ・適切な運動地公開手法について
- ・100平方メートル運動の公式会議（専門委員会、推進本部会議）での説明不足

今後以下のスケジュールで、各課題について再検討し、コースや運用方法を決定する。

	検討スケジュール	関連スケジュール
9月		*フレペ情報発信事業（北海道）
10月	運動地巡検による候補地選定	10/26～ 自然センター改修工事
11月	100㎡運動専門委員会で協議	
12月	新規コース・運用方法の検討	
1月	エコツアー検討会議（部会）で共有	
2月	エコツアー検討会議（本会）で共有	
3月	100㎡運動推進本部会議で協議	
4月		4/20 自然センターリニューアル
5月	*新規コースのめどがついた場合 新規コース整備準備	融雪後、森づくりの道（シカ柵コース）再開
6月	新規コース整備作業	
7月	新規コース運用開始	